

商店街なお仮設の再起 気仙沼「鹿折福幸マート」オープン 区画整理、また2年限定
 「(仮設商店街の)福幸マートは、(移転前の)福幸マルシェにあった19事業所と、新たに2事業所で出発。生鮮食品や雑貨の小売り、食堂などが立ち並ぶ。

しかし、これらの店は2年後に閉鎖される。津波と火災で大きく壊れた鹿折地区の復興に、市は土地を造成して街を作り直す区画整理事業を選んだからだ。鹿折の商店主らは、2012年3月にオープンした福幸マルシェで営業を始めたが、区画整理のため今年8月末には立ち退く必要があった。市は受け皿として福幸マートを造ったが、こちらも同じ理由で2年後に撤去される。

新たにマートに入店する服飾店のKさん(65)は「ここを出るまでに、新しい店を建てられているのか…」と不安だ。2年後にマートを出た後、鹿折地区で本格的な店を営む計画だが、市の土地造成が終わっていない場合、営業の空白が出るかもしれない。

福幸マルシェから福幸マートに移った別の小売店の女性は「ヤドカリじゃあるまいし…」とこぼす。区画整理の制度上、近くに店は出せるが、気に入った場所とは限らず、落ち着くめどはたっていない。

市によると、区画整理事業のため、他の商店街でも仮設から仮設へ移る事例が出る可能性が高い。福幸マート会長の小野寺修一さん(53)は「本格的な店で商売ができるよう、市は一日も早く事業を進めてもらいたい」と話した。」(「朝日新聞」2014年10月6日付け)

気仙沼「鹿折福幸マート」は1回目は12年3月に「福幸マルシェ」として、鹿折地区にオープンしました。当時は近くに陸に上がった漁船“第18共徳丸”があったので、観光客で賑わいました。しかし、“第18共徳丸”が解体されて、客足はバッタリ停まりました。周りには人は住んでいません。

今回は土地区画整理事業によって、「鹿折福幸マート」として2回目のオープンです。しかし、2年後には再度撤去されます。商店主達は、今度は自前で商店を再建しなければなりません。商店主にとっては体力的に持たず、今回で店をたたむ商店主もいると思われれます。

被災地の商店街 活気戻らず

今、被災地の商店街は、厳しい状況に置かれています。

- ① 店が被災したので、仮設商店街で営業している。
- ② 周りには住民が少なくなったので、お客は減少している。
- ③ イオン等の大型スーパーが、各地で新設して立地している。
- ④ 消費税増税によって、消費者のさいふの紐は固い。
- ⑤ 円安によって、商品が値上がりしている。しかし、店は商品に価格を転嫁することができない。

【仮設から仮設へ それでも商店主は頑張る 鹿折福幸マーチ商店街（気仙沼市）】



【福幸マーチの周りは 盛土嵩上げ工事が進む（鹿折地区）】

